

小児看護学実習Ⅱ 評価表

実習期間 平成 年 月 日～ 月 日

学籍番号 氏名

評価項目	自己評価	教員評価
1. 小児と家族を身体的・心理的・社会的側面から捉え、ありのままに理解する。		
1) 小児と家族の主観的情報を収集し、分析・解釈できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
2) 小児と家族の客観的情報を収集し、分析・解釈できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
3) 小児と家族の健康問題と看護問題を明確にし、問題解決の優先順位を決定できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
4) 看護問題の解決に向け、短期目標を設定できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
2. 家族（主に母親）の役割について理解する。		
1) 健康問題・看護問題がある小児における家族（主に母親）の役割について説明できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
2) 家族（主に母親）と看護師の役割を比較し、類似性と相違性について説明できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
3. 小児と家族の成長・発達段階、発達課題、個別性にあつた看護を計画・実施し、評価する。		
1) 小児と家族に必要な看護援助の具体策を立案できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
2) 立案した看護援助の根拠を説明できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
3) 看護援助の実施に先立ち、小児の発達段階に応じて分かりやすく説明し、了解を得ることができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
4) 小児が自分でできる部分を尊重し、小児を待つ姿勢で日々の看護援助を実施できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
5) 認知・理解力や運動能力が未熟な小児に対し、安全・安楽の原則に基づいた看護援助を実施できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
6) 小児の成長・発達段階、個別性に合わせてコミュニケーションできる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
7) 実施した看護援助の実際について記録・報告できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
8) 実施した看護援助について小児と家族の反応（主観的・客観的情報）から評価できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
4. 看護学生としての倫理的かつ責任ある行動・態度を身につける。		
1) 予習・復習をして小児看護に関する基礎知識を備え実習できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
2) 実習での看護体験を看護の視点から議論し、評価できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
3) 看護学生の倫理行動基準に従った行動がとれる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
4) 自己の考えを論理的に分かりやすく述べられる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
5) 自己の看護・行動を振り返り、評価できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
6) 自己の課題、今後の目標を明確にできる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

【出席状況】

・欠席 _____ 日 ・遅刻 _____ 回 (_____ 時間) ・早退 _____ 回 (_____ 時間)

【受け持ち患者リスト】(年齢、性別、病名、受け持ち日数)

1. _____

2. _____

【病棟実習指導者からのコメント】

.....
.....
.....
.....

【教員からのコメント】

.....
.....
.....
.....

【評価基準】

- 5 : 助言・援助を受け、良く達成できている。
- 4 : 助言・援助を受け、ほぼ達成できている。
- 3 : 助言・援助を受け、部分的に達成できている。
- 2 : 助言・援助を受けても、達成が不十分である。
- 1 : 助言・援助を受けても、達成できていない。

- 100～80点・・・優
- 79～70点・・・良
- 69～60点・・・可
- 59点以下・・・不可

総合評価 評価者		点
-------------	--	---